



川を汚す 私たちの生活排水

川や海に流れ込む水には、雨水や工場、農業・畜産などからの排水のほか、私たちの暮らしからの生活排水があります。生活排水に含まれる汚れはBOD(生物化学的酸素要求量)の量で1人1日約40gといわれており、貴重な水を汚す大きな原因のひとつとなっています。



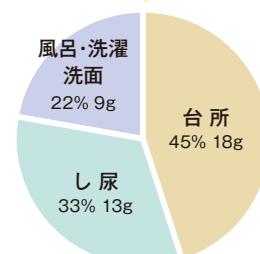
生活排水とは 台所・風呂・洗濯などの生活雑排水とトイレからの排水を合わせたものです。

キッチンからの排水がいちばん汚れている

生活排水に含まれる汚れのうち、発生源別では、台所の割合が最も多く、45%を占めています。これは台所からの排水に、調味料や油脂類などの有機物が多く含まれているからです。

下水道や合併処理浄化槽などの生活排水処理施設が整備されていない場合、これらの水が直接放流されて、近くの水環境に悪影響を与えることになります。

1人が1日あたりに排出する汚れ(40g)の発生源の割合



川を守る

私たち一人ひとりにできること



残った油は新聞紙や古布などにしみこませ燃えるゴミに。ペットボトルに入れた食用油は、市のエコストーションに持ち込む。



三角コーナーと水切り袋を利用し、野菜くずや食べ残しを直接流さないようにする。



食器や鍋の汚れは、古布やゴムべらなどで拭き取ってから洗い流す。



シャンプー、リンスは適量を守る。



浴槽の残り湯は洗濯に利用する。(水道水より温度が高いと汚れ落ちが良くなる)



排水溝の髪の毛などはこまめに取り除く。



洗剤は目分量ではなく、計量スプーンで正しく計る。



洗剤を使って掃除する回数を減らすよう、使用後にこまめに掃除する。

「少しの汚れ」をキレイにするのは大変!

右図は、食品を流した場合、魚が生息できる水質にするために浴槽(1杯300ℓ)何杯分の水が必要か示したもので。わずかな量でも、みんなが毎日流すと大変な量の汚れとなります。



市民団体による河川を守る活動



電動船によるひょうたん島クルーズの様子

新町川と助任川に囲まれた周囲6kmの中州は「ひょうたん島」の愛称で親しまれています。周遊船で約30分かけて一巡する「ひょうたん島クルーズ」や徳島の特産である良質な青石を使った護岸装飾のほか、県産のこだわりの野菜や食材を新町川沿いのボードウォークで販売する産直市「とくしまマルシェ」などのイベントが開催されています。令和元年には豊かな河川環境を生かしたまちづくりが評価され、国土交通省の「かわまち大賞審査員特別賞」を受賞しました。

こうした、本市の水を活かしたまちづくりに、ともに取り組んできたNPO法人新町川を守る会は、平成2年に発足して以来、川の清掃、花植え、水辺のイベント開催などを積極的に行っており、市民の強い思いと行動力が川を大きく変えることに繋がりました。